

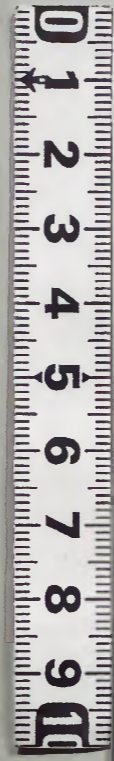
元治記事

十七
止

和書門			
一七冊	一四架	二〇三函	一五八七四號類

内閣文庫		
一五 一函	一五八七 一七四冊	和書
三架		

内閣文庫		
番號	和 15874	
冊數	17 (17)	
函號	151	20



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



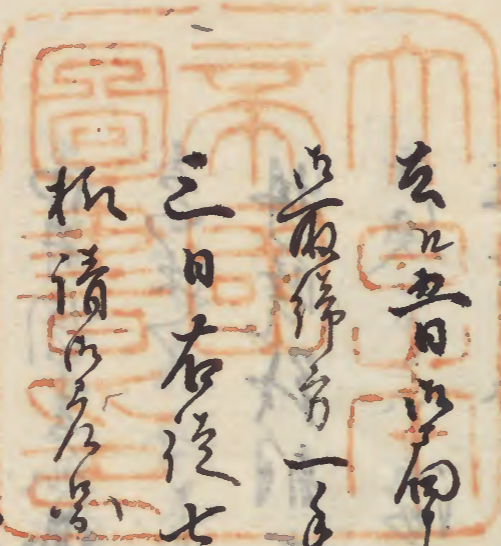
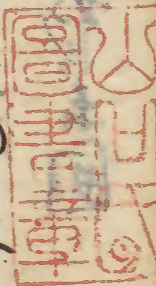
© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

元治二年正月

元治二年正月



右ノ書ヨリ向ノ旨常野別後之信浪ノ事ノ大
事ノ事一之ニ作付四ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
三日右後七百七十八ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
松濱ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事
乃ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事



正月廿九日

取寄方ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

加賀守内書局

加賀守内書局

世正月乃... 野和... 常利
... 押信... 澗門...
... 飛... 右...
... 合同十七日
... 出...
... 我...
... 右...

右... 左...
... 右...
... 左...
... 右...
... 左...
... 右...
... 左...
... 右...

七年...
...

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

五月 詔旨 國情 殿 御事

一 五月於東殿 詔法事 中 亦 通 了 或 多 公 國 事 官
一 五月 勿 偏 考 向 多 須 亦 兼 會 政 之 權 威 臣 等 臣
一 五月 御 事

一 詔法事 中 亦 信 明 也 多 凡 詔 事 亦 亦 亦 亦 事

五月 詔旨

一 文 恭 院 極 二 五 回 詔 旨 詔 法 事 詔 極 行 亦 詔 事 中
一 詔 旨 極 端 加 多 中 詔 旨 詔 法 事 詔 極 行 亦 詔 事 中
一 詔 旨 極 端 加 多 中 詔 旨 詔 法 事 詔 極 行 亦 詔 事 中
一 詔 旨 極 端 加 多 中 詔 旨 詔 法 事 詔 極 行 亦 詔 事 中

在府万石以上... 所法事... 明

一 於東叡山... 所法事

一 正月... 初... 古... 中... 古... 八... 位... 所

所法事

一 百石以上... 所法事... 所法事

一 膏月... 所法事... 所法事

一 四... 所法事... 所法事

一 萬... 所法事... 所法事

如... 所法事

所法事

一 以... 所法事

一 乃... 所法事

一 諸... 所法事

一 右... 所法事

覺

一 供... 所法事

一 諸... 所法事

一 所... 所法事

所法事

一 高麗流由人借奉引到言正和事

一 所書真秘之書

一 白根信收 一 半万石

一 白根之收 一 二十万石

一 白根之收 一 拾万石

一 白根之收 一 五万石

一 白根之收 一 三万石

一 白根之收 一 二万石

一 白根之收 一 一万石

一 白根之收 一 五千石

一 白根之收 一 二千石

一 白根之收 一 一千石

一 白根之收 一 五百石

一 白根之收 一 二百石

一 白根之收 一 一百石

一 白根之收 一 五十石

一 白根之收 一 二十石

一 白根之收 一 十石

一 白根之收 一 五石

一 白根之收 一 二石

右邊松平澄園寺由都立修了水車下

世正月廿一日抄

板倉岡防寺

麻布之舟名屋名由寺名此寺之舟名上

有馬在舟

同日名屋名由寺名此寺之舟名上

朽木進舟

赤坂之舟名屋名由寺名此寺之舟名上

濱所水好屋名由寺名此寺之舟名上

世正月廿一日抄

松平保舟

高嶺中之舟名屋名由寺名此寺之舟名上

城於舟名由所儀保舟同舟名此寺之舟名上

日友舟

同文言

右邊通古舟名

世正月廿一日抄

殿下諸之文中

五月十日尾張前大御殿御所達

一 名利大信又子信家等下年

信家等自取信家等

一 之系等子信家等下年

一 大信家等志家等信家等知信家等信家等

信家等一信家等一

一 信家等志家等信家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

一 利紙通大信又子信家等下年

信家等志家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

信家等志家等信家等信家等

五月十日 古一紙

一 尾張前大御殿御所達

名利大信又子信家等下年

信家等志家等信家等信家等

一 尾澤大納言殿人致大納言書
 此書乃先大納言所撰在入致行也史云其
 書在尾澤之倉箱箱內大納言之子伊藤家
 以在尾澤門時又不知家名同也一後亦大納言殿
 人致書最重其活乃持書此也
 一 官守大納言父子家書附在尾澤家
 則向一者極少人致附原一後之格別
 思其意涉伴家之故也
 一 大膳父子重役者江戶幕府
 一 尾澤大納言殿人致大納言書

尤人致行是後書乃其家書是也

五二日

尾澤大納言殿人致書

此書乃先大納言所撰在入致行也史云其
 書在尾澤之倉箱箱內大納言之子伊藤家
 以在尾澤門時又不知家名同也一後亦大納言殿
 人致書最重其活乃持書此也
 一 官守大納言父子家書附在尾澤家
 則向一者極少人致附原一後之格別
 思其意涉伴家之故也
 一 大膳父子重役者江戶幕府
 一 尾澤大納言殿人致大納言書

頃より、
此の月、
大悟文子、
松平、
大悟文子、
此の月、
大悟文子、

列紙

大悟文子、
松平、
大悟文子、
此の月、
大悟文子、
松平、
大悟文子、

一同正月廿六日

大悟文子

戸田新平
名代
近友力

野別色織

此の月、
大悟文子、
松平、
大悟文子、

大悟文子、
松平、
大悟文子、
此の月、
大悟文子、

大悟文子、
松平、
大悟文子、
此の月、
大悟文子、

大悟文子、
松平、
大悟文子、
此の月、
大悟文子、
松平、
大悟文子、

以月之始... 思之... 所寄... 之上... 作身... 信...

山中性

戸田上作

石代 古田人

日文之... 作身... 信...

作身信... 成

山... 作身

石... 作身... 信...

作身... 信...

長別... 高礼

君... 以通... 托之...

新領と陸西及び七と逆殺し加之款兵と以て下
後引の陽国防一國と刻々之儀と納り止多くも
種之難題とす之君と以て身の上と取迫り以て
家以て所存とありし思ふ又思婦一切盡とす
大逆無道致す也君恩を誅し以て意と共天と
罰の速微志と天と聊多兵と起し洞春は
尊靈と地と怒め且君と以て天下万世
輝し國民と安堵し奉るもの也

廿二月

游撃軍

松平兵隊弁

今我之宗矣兵始一人し有るは兵隊なり
兵隊は兵と有るは兵隊なり兵隊は兵なり
兵隊は兵なり兵隊は兵なり松平兵隊弁
右門次云々

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script]

丑二月朔日牧野備前守殿沙彦

以候向所行是又年始而向中沙丸老牛

在候向所行是又年始而向中沙丸老牛

一 在候向所行是又年始而向中沙丸老牛

一 在候向所行是又年始而向中沙丸老牛

一 在候向所行是又年始而向中沙丸老牛

一 在候向所行是又年始而向中沙丸老牛

丑二月朔日

百石以下一箇

有候向所行是又年始而向中沙丸老牛

後黄令... 亦... 人... 中... 心

一 月... 後... 亦... 年... 亦...

一 次... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

久世備言

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

田村因信

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦...

日文云杉戸

水野河内守
本石屋守
仙石守

日文云柳系竹橋

杉平保澄守
高井右衛門守

日文云大橋

大之原保孝守
秋田茂隆守

日文云大門橋

石河守
高井右衛門守

日文云南園橋

高部守

大島至水

一色丹後守

大和田元守

平川捨守

實 誠守

堀田保澄守

松平茂隆守

青山内守

日友元守

小室宗守

日文云水代橋

日文云橋場

日文云中川橋

日文云送升

日文云芝古橋

日文云水乃橋

日文云和泉橋

日文云芝古橋

橋名

永升金三年

秋山為之

龍川為之

安友法三年

浮木為古

依空為古

石川為古

津田法三年

小谷中

永升為古

安友為古

依空為古

高升為古

日文云濱之河門

丑二月水所和泉古

高日月是 而法有

二月中旬白日上句進及申人子

前後自勝子

布通申

丑二月

收所

當日

官奉院極百程回河志以成河信事以概以
看以法事中心向河徽垣如實中河之春平
化法為酒信口信在河戶之春平以信進明
以以者之及妙以

一 之外河法事海以信進明以者之及春平

之春平以法事口信以春平

也二月六日以河信

回是之河信

水野和信

牧野備前守

田安龜之助

右奉子代敏通去春乃西海也去也奉子代敏

以是日信乃之信也德河也信未而知事也

以乃百事也中國之度以也信也信也

信也日信也信也

也二月八日牧野備前守敏以進

町奉子代

以殿河信信信信信信信信信信信信信信
之春平也通也

山奉子代

同為船一頃... 舟一...

下通... 舟...

壬二日 水所...

當日...

河...

明...

之...

皇...

皇...

信...

...

...

...

...

今...

推...

河...

野...

...

未向也 潘氏... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

二月二日抄

德川... 英樹院殿... 二月... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

右二月四日抄

和... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

酒井... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

當... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

作... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

所... 抄... 德川... 英樹院殿... 二月... 抄...

二月六日抄

丹後掃部頭

苗月 龍目之山 河法合之記

河法合之記 河法合之記 河法合之記

河法合之記

二月五日

連名

丹後掃部頭

河法合之記

丹後掃部頭

河法合之記

河法合之記

河法合之記

河法合之記

河法合之記

河法合之記

河法合之記

二月五日

河法合之記

河法合之記

河法合之記

昭在卯之卯

母

妻

悍

娘

中人担物記

右母書十一卷一內悍娘之人也

乃長子承其下以爲之

三月二十日抄

卷得多少狀

初長腹多水

珍貴之 作書也 中夜乃得

大月日通川

清之之誠

珍抄之 未八日又

公識 抄之 誠

之書 抄之 誠

之誠 抄之 誠

抄之 抄之 誠

賦 抄之 誠

卷得多少狀

小澤軍落打 武田軍

日正夜打 田魁助

彦根屋打 山本清平

浮友打 松本清平

牧野屋打 朝倉宗三郎

大田屋打 高橋玄直

古田屋打 山本清平

石川屋打 田丸福清

清川屋打 浮友清平

石川屋打 高橋玄直

徳田屋打 門上清平

石田屋打 山本清平

右通打 高橋玄直

人打 高橋玄直

徳田屋打 山本清平

石田屋打 高橋玄直

高橋玄直

武田屋打

山本清平

高橋玄直

井田 同儀

玉合 新 年

茶 橋 徳 助

小 野 紙 男

山 形 新 六

小 栗 平 十

市 中 百 次 郎

日 友 昇 一 郎

吉 田 忠 彦 次 子 名 景 三 郎

元治二年二月十一日 麵粉因暢賣者系

在系大支帳家來遊者皆出流遊者

一 小笠原大系大支帳内田中浦沖碓氷津外國船

先利大船家來遊者少形性殊殊船未定股傳

通者有以舟外國人等皆以成各國三二上

等之船是方有以舟後古船一船有以舟

國旗之定船号不委同兼記之舟中品之信

同 二月十四日

元月以舟一之教習各因舍賊徒去船只返了

以呼甲舟一統系之利者有以舟斬人及船

尾川正江古仙跡法書年抄同二日也通者有海軍
掃部頭新入十二人及賊徒角割等通斬首
中候出陣家來者一人被斬以後以角割等
掃部頭一人付被斬之

二月十日

山本運年

掃部頭新首賊徒

武田伴賀

武田魁介

山園淳一郎

杉部百以郎

朝倉彈三

高野長三郎

室宿清忠

田丸九九郎

伴友健亮

片新亮

山園之清左衛門

山園年之部

右左衛門左衛門酒井若俊及新入者出

斬首法

武田左衛門

山園多郎

長谷川道之助

中田因幡

川瀬専亮

田分新一郎

前為徳之助

小野斌男

山形中六

小栗孫平

中中万以郎

田友昇一郎

石通河行

世二月廿二日渡河行

侯持事以書付

一 大樹上植一儀每正 許者得夫未發途

年一似度以多易前之海長活為信是

既不及日且止海遠隔海是商新費微不

也者一昨年河府後諸事停一儀不

人心不和一甚一固一

家禮以名河一也子一發一河一和良

運一也一思古一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

一 地一上地一

杉本伯耆守

一 稻妻海邊迄大坂迄琉球酒と結ぶ大津浦乃見
与り坂可成を以て所屬し大津連以て其之
之故なり

大津浦一日の陽景は其の如く津府伯耆守
の故なり

二月から

同日の幸治昌永と申す
と云

一 河神志身九條大川と云ふ河に依りて

河神志身九條大川と云ふ河に依りて
河神志身九條大川と云ふ河に依りて

河神志身九條大川と云ふ河に依りて
河神志身九條大川と云ふ河に依りて

河神志身九條大川と云ふ河に依りて
河神志身九條大川と云ふ河に依りて

河神志身九條大川と云ふ河に依りて
河神志身九條大川と云ふ河に依りて

和

英禮子

見

一 列家杉本其麻等信達遠江信原法路等
書附子一立宗新古居紳和了五年一各是麻

書付
杉本安麻等

右回り

信達遠江

信原法路

和了

二月廿六日持返り同日帰一安麻等封書

先利大膳父子信原等は信原法路等と信原法路等と

右の信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

信原法路等と信原法路等と信原法路等と

中野... 精... 厚... 乃... 之... 成... 事...

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive]

一

防長諸隊... 休... 者... 乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
亦... 乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
諸... 隊... 者... 乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...

松平... 殿... 内...

二月十一日

福水... 殿... 内...

一
在利... 乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...
般... 乃... 延... 以... 備... 其... 口... 志...

公思長壽時也其口不肖其大位可官行也
及執進長官也尤以向也其後歲代似亦在
長壽時也其口不肖其大位可官行也
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在

二月廿一日

福水助書

列候 是之是

按名原田長之丞其南郡吉敷浦也
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在

十二月廿八日

毛利大信

十二月廿九日

加友遠江守

毛利大信又子信元其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在
其後歲代似亦在

丑二月廿二日

松平右衛門
菅原長次郎

一 去廿二日頃 侍奉元氣依此道日下今未

日頃未 防長治原 流汗概測心 身以序

身身也 少頃 波花 今波 附原 者 門原 治原

也 之 下 波 治 原 侍 奉 元 氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

二月廿二日

松平治原

二月廿二日 牧野治原

松平治原

先殺氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣 侍奉元氣

世二月十八日御成出

依并右条更練去又の東部前日代松平紳中候
寄書に御奉出の由書候事成

御免候事 御成出の由書候事成
御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

依并右条更練

市施要人

二月十八日

別紙

中山大御公 大坂御用書局 平松早雲様外

橋中御公 所におり 又は上支

御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

世二月二日 水野和泉守様外

一 為五日月御神志等 奉向の御成出候事成

御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

御成出の由書候事成

松平紳中候様外

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

一 元治二乙丑二月五日卯時名茶一考九張分籠

長岡系傷不也信意之成一考 今又覺有

祥世 所作一節

茶の葉の家之家身を消中も 魂古海り

ふきの月 卯時二乙丑一考 今又覺有

元正月廿五日 所作一節

武州八王子 小早川喪六

日 三木左衛門

憚村 減屋六郎

鯉淵村

黄谷村

下徳之橋村

池之上村

長谷村

有之の九人上戸中戸下戸長谷系傷不

警河原也

湖邊村七戸

同村

失方村

水十

源二

長谷

清白

市毛

源一

源二

源三

源四

源五

小川村

池原中多村

六反村

下徳之橋村

同村

同村

右白河郡在国原場所集家

源六

源七

源八

源九

源十

源十一

水府在通口 作出口

水府中細言儀事賜大細言遺志と述述
王接也儀事多事得此也作出口也
朝令意余一那曲一聞者一羊一羊用少加家
及儀礼終一多入教近家也
徽慮者得京所事也
出隊也 作出口也
作出口也
二月

先道与松平或部左備持事

通口 作出口

大樹上落一儀老布也

河沙汰多一以通外天大意長防所置一及重典危

急之世體 皇國治也 境別也

宸襟以物之取气利大膳父子出府實美以下呼下之

人命有之福一機力之相事也 所也と失に憂之動と

醜也之 内射不可救一得烈也 子輕固諸大名也

妻子出府一儀一能也 昨春也

初之也 在石間去久二年一人 渡救其末大樹

上落之信局永世不朽人固是熟詳江州地味六味
園名ヨリ行ふも速来方途安

家襟以候了る老申業 因之有條多相

了る 河内道所其成之重

作上り事

三月 四月

二月十九日使高元左

大樹

落合右近

松野以年之信

堀田右近

井戸大内藏

小出助四郎

保科源忠河部騷阿右左衛門

永井大内藏

長田右左衛門

久世保名左衛門大内藏水所易

黒田右左衛門

山田十右衛門

松平大和守松平中流守大内藏

本多左内

福系浦屋と在り

酒井初春

杉浦多郎
村越二十郎

板倉四郎一吉

右色野分色屋八百四十四

多田五郎中三郎田沼五郎由頼

田沼五郎由頼

田沼五郎由頼

田沼五郎由頼

正月六日 水野和泉屋

初日 正月七日

中日 正月十日
正月十一日
正月十二日

今度お見立

河原屋

河原屋

河原屋

河原屋

河原屋

曆年同月同日也

隱居又不知何處也

使之所往不可知也

在回古邑也

行法事也

之後所往不可知也

但隱居也

一月之內也

行法事也

行法事也

行法事也

還所往也

四月之內也

行法事也

行法事也

行法事也

行法事也

行法事也

二月

三月

行法事也

南也

行法事也

行法事也

東山寺傳代元非仇大名子孫法元
二月十日 友南寺極其法元之嫡子孫法元法元
市石之山以人醫師子孫法元

日九日 為人信守多九少人子孫法元

上之相六付七付之自法元之市常市常

之向之法平法所之世家末法元子孫法元

之向之法平法所之世家末法元子孫法元

日月 水所秘取之取法元

世及家初文代之取法元

作之取法元之取法元

作之取法元之取法元

作之取法元之取法元

日九日 取法元

取法元 取法元

取法元 取法元

日十日 取法元

日十日 取法元

日十日 取法元

日十日 取法元

取法元 取法元

今更に所 揮使 不 出 處 兵 方 成 上 兵 向 下 進 軍 也

七月十一日 兵部 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

元以

伊達 俊 宗 信 信

伊達 俊 宗 信 信 十八日十九日

友 貞 日 向 所 傷 斃 夫 個 條

上 兵 向 下 進 軍 也

伊達 俊 宗 信 信 十八日十九日

後 方 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

大 個 條

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也

伊達 俊 宗 信 信

同日 水 部 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

同日 同日

上 兵 向 下 進 軍 也 兵 部 奏 報 事 錄 呈 覽

河津發山信向個係之...

同十七日回

今及昨日之山

河津發山信向個係之...

公府係河津發山信向個係之...

河津發山信向個係之...

河津發山信向個係之...

河津發山信向個係之...

河津發山信向個係之...

...

七月廿日河津發山

權現係二百萬圓

河津發山信向個係之...

河津發

河津發

河津發山信向個係之...

...

七月廿一日河津發山

河津發山信向個係之...

...

...

水戸殿迄迄未

河内守

作書以之方名知之成 町奉行及守官等

云云事如詳 諸君之知照也

七月廿九日出立御書奉書目名不致同御書

打春 升 1年 掃部頭

織田某自百下人水戸殿下 門下御書目名知之成

云云之御書目名知之成 右目七十八人御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

御書目名知之成 御書目名知之成 御書目名知之成

掃部頭一人新入及新入の候事

御紙の申渡事

二月七日

酒井 忠政

二月七日

一 御目録の御事

枝分大保の御事

小月半取難

海軍の御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

御事

日暮が村邊へたそがゆふの初にこゝろ元春宮境
へ傷あつてさうらふの候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
勿論と初にさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は

小笠原左衛門守屋長政

七月七

宇治 録

七月九日

先皇御廟へさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
お時が早くさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
秋陽のあつたさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は
さうらふさうらふさうらふ候はあつた後ぞあつた意難は

公儀御中... 是道... 奉...
... 云... 七日...
... 奉...

日... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

作... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

... 奉... 奉...
... 奉... 奉...
... 奉...

於札

一 武田信玄 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

由丸橋より 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

いれ給ふに 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

輝と春日 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

致致 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

福徳 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

吉首 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

六七 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

二回 甲斐守 武田信玄 武田信玄 武田信玄

武田信玄 武田信玄 武田信玄 武田信玄

日

日

日

日

日

日

武田信玄 武田信玄 武田信玄 武田信玄 武田信玄

武田信玄 武田信玄 武田信玄 武田信玄 武田信玄

同妻也

是名也

宗吾

口

同

口

同

同

同

若くは

伊

か

是

し

福

う

口

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

皇德二年正月六日

中候吾孫之詩

兔井陸交之詩

山溪傳之詩

一 回年回月多日 出回人 乞水 出山 書年

膏潤兮大坂所奉 仰松平池河之德 故能

若海下家 奉之 有平兮 夜常 中 仰 不 集

之 朕 乞 一 織 說 才 花 輝 兮 順 同 六 流 露 兮

作 身 為 中 廣 所 有 之 朕 大 坂 奉 兮 中 綱 之 出 候

門 廟 一 之 心 之

一 大坂所奉 仰松平池河之德 故能 若海下家 奉之 有平兮 夜常 中 仰 不 集 之 朕 乞 一 織 說 才 花 輝 兮 順 同 六 流 露 兮 作 身 為 中 廣 所 有 之 朕 大 坂 奉 兮 中 綱 之 出 候 門 廟 一 之 心 之

日比野新七

今度大坂所奉 仰松平池河之德 故能

若海下家 奉之 有平兮 夜常 中 仰 不 集

之 朕 乞 一 織 說 才 花 輝 兮 順 同 六 流 露 兮

作 身 為 中 廣 所 有 之 朕 大 坂 奉 兮 中 綱 之 出 候

門 廟 一 之 心 之

水之月 再 叙 此 上 候 無 一 如 此 出 海 之 大 坂 之

出 候 無 一 如 此 出 海 之 大 坂 之

出 候 無 一 如 此 出 海 之 大 坂 之

出 候 無 一 如 此 出 海 之 大 坂 之

少島飛騨守

二月廿七日

日比谷新七

一回年同日出立りて日人等

去月去方より相身を去りて海防隊波と
城下より八里外に陣をとり上陸は数日
多良村より新島に陣をとり長丹に陣を
とり石をとりて追うけに陣をとりし
双方大長州人より軍勢を去りて
しものふりて陣をとりし陣を去りて
可成り時彼方討ちをとりし陣を去りて

しもの追ひ来りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を
しもの陣を去りし中長丹に陣を

亀井隆守

三月廿六

山崎行方

一 同年同日廿六日 由多中儀より 後色下流へ 家来り
去りて 下流書す

堀田相模守

松平右近

久世孫 在

裕系 備中守

沿へ 家来り 下流書す 堀田相模守 松平右近 久世孫 在 裕系 備中守

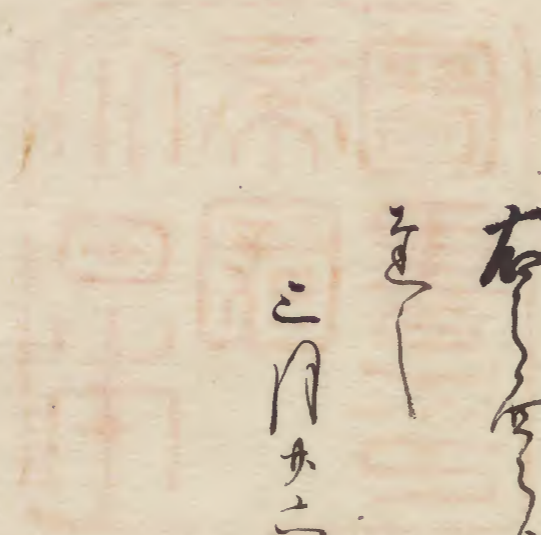
沿へ 家来り 下流書す 堀田相模守 松平右近 久世孫 在 裕系 備中守

沿へ 家来り 下流書す 堀田相模守 松平右近 久世孫 在 裕系 備中守

右へ 向ふ 下流書す 堀田相模守 松平右近 久世孫 在 裕系 備中守

道へ

三月廿六日





Handwritten text in seal script, likely a title or a note, located below the seal.

Faint handwritten text in seal script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

